



「秋」がやって来ました!!つかの間の心地良い季節です。

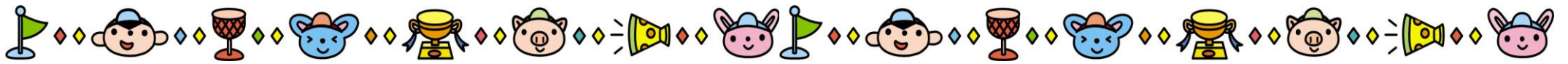
新型コロナウイルス陽性者数も少しずつ減少し始めていますが、まだまだ油断大敵!!です。

園においても引き続きコロナ対策を徹底してまいります。

「運動会」「遠足」とこの陽性者減少のタイミングで、年長組は園生活最後の年を充実させて頂く事とします。

改めて、コロナ禍三年目…を振り返ってこの経験で得た事や考え方の変化・無駄と割り切れた事…辛かった事…出来なかった事…沢山あります。

どんな状況においても「ありがとう」探し上手になろうと心掛けました。



～アドラーより～

みたび勇気づけ

1. 子どもを理解しよう

「子どもを理解する」というのは、子どもの言うなりになることではなくて、起こった出来事について、子どもがどんな風に理解し、どんな風に感情をもち、どうしていこうとしているかを、よく話を聴いてわかってあげることです。親が話を真剣に聴くと、「親は私の仲間だ」と感じるでしょう。忙しいときなどに話しかけてくるのは、あるいは不適切な行動でもって注目を引こうとしているのかもしれませんが、しかし、そんな場合でも、仕事の手を止めて、真正面から子どもに向き合ってみてはどうでしょうか。

2. 冷静に話し合おう

あなたが感情的になっていても、子どもが感情的になっていても、子どもを勇気づけることはできません。そういうときには、両方の感情がおさまるまで、話し合うのを先へのばしましょう。両方が落ち着いてから、ゆっくりと話し合えばいいのです。

3. 子ども自身に考えてもらおう

子どもの人生について、できるだけ子ども自身が考えて決めてほしいと思われませんか？だって、それが「自立する」ということですから。

そのためには、子どもが失敗したときや間違いを犯したとき、親が指示するのではなく、子ども自身にどうするかを考えてもらうことが必要です。

子どもが自分で考えることが難しいようなときでも、ゆっくりと子どもの話を聴いてあげると、子どもはさまざまのことに気がついて、自分で決めることができるようになるかもしれません。

4. 子どもを援助しよう

人間は一人で生きていくことはできません。いつでも誰かの手助けがないと生きていけないのです。子どももそうですし、大人もそうです。ですから、親は子どもを援助しなければなりません。もちろん、子どもも親を援助してくれます。そうして助け合って生きるのが家族なのです。子どもを支配するのではなく、子どもに服従するのではなく、対等の仲間として子どもを援助して暮らしたいと思われませんか？